# 第44回 一橋植樹会 総会

平成29年5月20日(土) 11時 於 一橋大学佐野書院



新緑の中に佇む職員集会所

# 第44回 一橋植樹会 総会議案

第1号議案 平成28年度事業報告並びに

決算報告承認の件

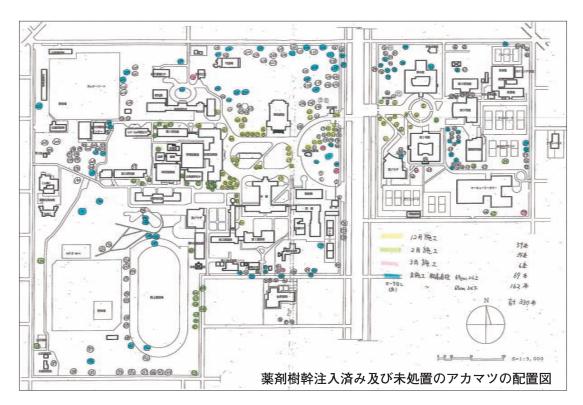
第2号議案 役員改選承認の件

第3号議案 平成29年度事業計画並びに 予算承認の件

アカマツの樹幹に薬剤を注入







# 第1号議案 平成28年度事業報告

平成28年度は7月に降雨による作業中断はありましたが、9回の定例作業と2回の休日作業、更に一橋祭及び KODAIRA 祭準備作業と合計13回の公式作業を事故もなく無事実施することができました。

年々増え続ける学生の参加者にも支えられ、更には熱心な卒業生有志による臨時作業の回数も増え、作業領域の拡大と作業の質の深化もありました。これも国立キャンパスの環境整備を楽しみながらも、緊張感を持って作業にあたって頂いた、卒業生・教職員・学生及び関係者の皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

今年度の目標として「植樹」と「安全」を掲げました。「植樹」につきましては、武蔵野の雑木林復元のため西キャンパスに大学提供の幼木を主体に合計48本の移植を実施し、西キャンパス南西角には外部との遮蔽用としてシラカシ10本を購入の上植樹しました。更に、西キャンパス法人棟の斜め前にオオシマザクラの成木1本を「植樹会寄贈植樹」として植樹しました。これは平成25年3月に西キャンパス南西の空手道場の並びにヤマザクラを寄贈植樹して以来のことでした。

「安全」につきましても今年度9台に増やした刈払機の 安全操作徹底の観点より、3回に亘り安全講習会を行ない ました。



〈刈払機講習会〉

近年、松枯れが顕著になってきています。母校の「一橋の歌」にも謳われているアカマツは当初、国立・小平合わせて千数百本あったと言われますが、昭和46年調査では1,000本にまで減少していました。平成4年2月には施工対象755本の内643本に対し約1,600万円をかけて薬剤樹幹注入が実施されましたが、その薬効は2年間でした。その後も進む松枯れと小平と国立統合による建造物増築により更に多くのアカマツが伐採され消滅しました。4年前には大学は200万円をかけて薬剤の樹幹注入を実施しましたが、残存する約400本に対し76本にしか実施できず対策は極めて限定的でした。その薬効が4年で期限切れとなる今年度、残存する貴重なアカマツ保全の為に、植樹会は一橋大学基金を通じて植樹会活動目的にと卒業生より頂戴していた寄附金の75万円の提供を申出ると共に、予算に対策費として計上した50万円、更には3月に追加7.5万円の合計132.5万

円を大学への支援金として提供しました。大学の捻出された127万円と合わせて約260万円かけて99本のアカマツに薬剤の樹幹注入が実施され、これで今後7年間は保ちますが、未処置の231本が残りました。

キャンパスは元より大学の管理下にあり、植樹会は基本的にボランティア作業を通じて大学をサポートする立場にあります。昨年来、学長を始め執行部の方々とも打ち合わせをする機会を頂き、これらの困難な課題について訴えて参りましたので充分なご理解を頂けたと信じております。

## 1. ボランティア作業

#### (1) 活動実績

予定通りに年間13回の定例作業(一橋祭と KODAIRA 祭の両委員会に協力する特別清掃作業を含む)を実施することができました。参加者は延べ1,728人と前年比5.3%増加し、10回以上実施した臨時作業への参加者数を加えると延べ2,071人が母校の緑を守るために汗を流したことになります。作業時間を今迄の1時間半から2時間に延長しましたが、それでも予定した作業が定例作業日に完了しないこともあり、臨時作業の回数を増やしてカバーしました。

作業の内容としては、例年行っている作業の繰り返しが中心ですが、例年行っていない瓢箪池周辺の雑木を大幅に整理してすっきりとした風景にし、更に1、2月には大きくなり過ぎた経済研究所南側の2本のウメと西プラザ北側の1本のウメの剪定をしました。脚立を二つ使い、学生にも協力して貰っての大作業でした。

#### (2) 休日作業

春秋年2回の休日作業は6月25日(土)と10月29日(土)の 両日に実施、それぞれに161人と150人の多数の人に参加頂 き、作業を体験して貰うことが出来ました。未だ、仕事を 抱える現役の卒業生にリピーターが増え、又、新規の参加 者も増えつつあるのは休日作業を設けた趣旨から大変喜ば しいことと受け止めています。

# (3) 植樹作業

キャンパス内で枯死・衰弱してしまった樹木の復元・更新等のために、今年度も定例作業の中で植樹をおこないました。それとは別に、2月の定例作業日には、暫く行われていなかった「植樹会としての寄贈植樹」を実施しました。

4月15日 西キャンパスのホッケー場東側にコナラ7本 クヌギ2本の苗床からの移植

5月20日 西キャンパスのホッケー場の東側にコナラ1 本、クヌギ7本、イロハモミジ8本を苗床か ら移植

6月26日 西キャンパス

- ①陸上競技場と野球場の間にアカマツ2本の 移植、1本補植
- ②国際交流会館の東側にアベマキ、クヌギ約 20本の移植

10月29日 西キャンパスの南西如意団道場裏にシラカシ

#### 10本を外部遮蔽用に植樹

2月17日 西キャンパスの法人棟の斜め前にオオシマザ クラ (成木) 1本寄贈植樹



〈平成28年度植樹会による寄贈植樹〉

尚、毎年卒業生を支援して実施して参りました卒業記念 植樹は一旦企画されましたが、諸般の事情より実施に至り ませんでした。そのため、過去10年間に亘り続いた卒業記 念植樹が途絶えたのは残念なことでした。

# (4) 『国立キャンパス緑地基本計画レビュー』に沿っての作業

一昨年12月末に大学のご協力により冊子完成となった『緑地基本計画レビュー』に基づき大学に提案した「新管理計画案」は大学施設課とのワーキング・チームを立ち上げその進め方に付いて検討を加え、着実に実施に移す予定でいましたが、双方の都合により僅か1回の検討会で終わってしまい、大きく立ち遅れました。

#### (5) 作業後交流会

作業後の交流会には毎回多くの学生が参加します。殆どの学生は非会員でありながらボランティア作業に参加し、労働の楽しみを体験した後に卒業生とも活発に歓談し年齢を超えて同窓生が一体感を醸成する貴重な場として大いに役立っています。それが又、新しい学生参加者を生み出す源泉にも繋がっています。質素ながら季節の特徴を生かした企画により参加者に楽しんで貰えるよう努めました。

# 2. 学生の主体的活動の推進

学生理事は限られた時間の中で役割分担をしながら、会の運営・活動に参画してくれました。中でも選ばれた学生理事は幹事として毎月の幹事会にも出席し、会の運営に付いて理解を深めながら都度学生の立場から提言をしています。

## (1) 植樹会のアピールと学生の作業参加の促進

嘗ては『一橋新聞』に広告を掲載し、定例作業日の告知を行う一方で応援部の部員の協力を取り付けながら、学生会員を募り、ボランティア作業に参加する学生を集めるのに苦労した時代がありました。近年では一橋祭運営委員会、KODAIRA祭実行委員会とのコラボが進んで、両委員会の委員が植樹会の学生理事も務め、フエイス・ブックも活用しPRしてくれているので学生の作業参加者の基礎固めが出来上がりました。加えて、体育会系クラブの部員も団体で参加してくれるケースが多くこれも大きく寄与しています。

植樹会を知って、理解して貰う上では植樹会の寄付する

講義、「緑の科学」も大いに役立って居り、これら全ての要素が上手く噛み合い良い方向に回転していると思われます。

#### (2) 学生理事の自主的活動

一橋祭及び KODAIRA 祭への植樹会としての参加は「森のクラフト教室」企画を核として継続し、大学祭の人気企画として定着しています。植樹会のブースで植樹会活動を紹介するパネルの一部を更新しました。学生理事の発案でスタートした「くにたちのお花畑」の運営も OB 理事のサポートを得て継続しています

#### 3. 組織強化活動

#### (1) 会員の状況

植樹会活動の基盤の安定化と活発化を図る為に、引き続き新規会員の増強に努めました。その為に、従来の個人会員の入会増を狙う路線と並行して団体会員の入会をお願いする方針の下、如水会本部の支援を得て手始めに如水会国内支部の未入会74支部に働き掛けました。最終的に、個人会員144名、団体会員12団体の新規入会に対し、物故者を含む退会33名、見做し退会(3年連続年会費不払い)29名を差引いた結果、実質的な個人会員の増加は82名でした。勧誘活動の主な場は、5月のホームカミングデー(HCD)と8回に亘る周年大会で合計109名に上る方に新規入会頂きました。学生理事を含む幹事会メンバー全員が一丸となって活動した成果です。

#### (2) 組織強化

一部会員の年会費不払いによる「見做し退会」処理は残 念ながら常態化して居り、今年度も該当人数を減らすべく 努めましたが29名がその対象となりました。

一方、定例作業に参加される昭和50年前後卒業のリピーターが徐々に増え、年度半ばには幹事会に入り協力して下さる方も出て来られ、徐々にですが待望の世代交代への流れが見えてきました。

# 4. 広報活動

#### (1) 如水会々報とホームページ

「植樹会通信」は引き続き如水会々報内に確保された2ページを使い、刷新された編集方針の下で約3万4千人の如水会員に植樹会のボランティア作業の報告に止まらず、キャンパスの歴史・自然、及びキャンパスの直面する課題について深く掘り下げて発信しました。一方、文字数の制約も無く、美しい写真を存分に活用できるホームページでは、キャンパスの四季の移り変わりを多くの写真で紹介したり、松枯れ対策に付いてもキャンパスの維持保全上の象徴的問題として提起しました。

# (2) その他の広報活動

引き続き、学生向けに学生班と連携し一橋祭、KODAIRA 祭、HCD等のイベント時にも情宣活動を行いました。

#### 5. 寄附講義「緑の科学」

5年目に当たる今年度も前年度の経験を基に講座内容に 工夫を凝らして臨みました。座学中心であった初期に比べ て、管理作業の実践や、観察、実習のコマ数を増やし受講す る学生により興味を持って貰うように変えました。オリエ ンテーションに集まった学生約260名から抽選で90名の受 講資格者に絞り込み、最終的には64名が受講しました。本講 義を通じて受講生が大学キャンパスの素晴らしさを知ると 同時に植樹会活動の意義を認識することにも繋がりました。

## 6. 植樹会室の有効活用

学内の正式名称が施設課分室の植樹会室は大学のご理解 を得て平成21年3月に誕生しました。当初は植樹会活動に 携わる学生理事達に積極的に活用して貰おうとの意図からスタートしましたが、その後、卒業生の幹事の打合せに、或いは事務作業に、備え付けのPCのデータ・バンク化にと徐々に植樹会の基地的性格を強めて来ています。この一環で、今年3月に2台目のPCを導入しました。

## 7. キャンパス外活動

- (1) 6月1~2日の二日間、福嶋顧問ご指導の下、植樹会から12人が参加して恒例の箱根坐忘山荘庭園の手入れを実施しました。
- (2) 毎年続けて来た学外研修は諸般の事情より実施出来ませんでした。

# (1) 作業参加者の推移

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	対前年比増減
卒 業 生	569	578	612	34
教 職 員	44	36	49	13
学 生	699	1,027	1,067	40
計	1,312	1,641	1,728	87
1回当たりの 平近作業参加者数	101 (13回)	126 (13回)	133 (13回)	7

<sup>\*</sup>平成28年度は天候に恵まれ、休日・定例作業11回(8月を除く)に一橋祭・KODAIRA 祭準備の2回を加え合計13回の作業をおこなった。

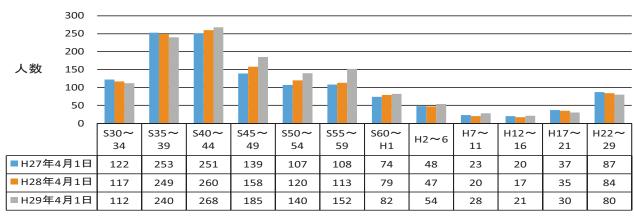
# (2) 会員数の推移

会員種類	平成27年4月1日	平成28年4月1日	平成29年4月1日	対前年比増減
卒 業 生	1,334	1,363	1,445	72
教 員	48	49	50	1
職員	36	36	32	-4
(小 計)	1,418	1,448	1,527	69
団 体	14	15	26	11
特 別	2	2	3	1
学 生	24	23	24	1
合 計	1,458	1,488	1,580	82
(有料会員)	1,395	1,436	1,538	92
(免除会員)	63	52	42	-10

- \*免除会員⇒卒業後2年未満の卒業生会員+特別会員+学生
- \*平成29年3月末現在、個人会員(卒業生、教員、職員)1,527名の内、終身会員数373名

# (3) 卒業会員年次ブロック別会員推移表

## <卒業会員年次ブロック別会員推移表と数>



収	支計	算 書			
平成28年度一般会計収支決	・箟案およる	び平成29	年度予算案	€(単位;刊	△円)
	平成27年度		- 及		平成29年度
科目	実績	決算案	予算	比率	予算案
I.前期繰越金	2,036	2,585	2,585	100%	2,825
Ⅱ.収入の部	2, 000	2, 000	2,000	100/0	2,020
1. 会費	3, 903	4, 237	4,046	105%	4, 433
(1) 団体	170	200	130	154%	240
(2) 個人	3, 006	3, 105	3, 219	96%	3, 249
(3)終身会員会計からの繰入	727	932	697	134%	944
2. 如水会支援	600	600	600	100%	600
3. 大学後援会	0	0	150	0%	0
4. 特定収入	551	629	501	126%	485
(1) 総会会費	300	285	300	95%	285
(2) 寄附	250	327	200	164%	200
(3) その他	1	17	1	1700%	0
5. 卒業記念植樹	4	0	0		10
収入合計	5, 058	5, 466	5, 297	103%	5, 528
Ⅱ.支出の部					
1. 学園祭賛助・参加費	400	431	430	100%	460
2. 組織強化(学生)	217	52	320	16%	100
3. 集会所備品	73	178	110	162%	110
4. 組織強化(一般)	231	31	180	17%	70
5. HPメンテナンス	669	446	400	112%	500
6. 広報用印刷物	225	188	0		300
7. 総会費用	770	803	810	99%	840
8. 植樹費・管理費	45	847	800	106%	700
9. 学生植樹支援	99	52	160	33%	210
10. 作業道具・備品	73	151	220	69%	258
11. 保険料	130	207	130	159%	210
12. 会議費	152	160	170	94%	50
13. 作業後交流会	963	977	995	98%	985
14. 事務·通信連絡費	118	138	250	<u>55%</u>	150
15. 寄附講義運営費 16. 雑費	226	306	400	77%	410
<u> 16. 雑費</u>   支出合計	118	259 5 226	135	192 <u>%</u> 95%	275
Ⅲ. 次期繰越金	4, 509 2, 585	5, 226 2, 825	5, 510 2, 372	119%	5, 628 2, 725
				· ·	
平成28年度終身会員会計決					
	平成27年度		4成28年原 予	<u>〔</u> 比率	平成29年度
I. 前期繰越金(終身会費前受金)	実績	<u>決算案</u>	予算	<u>      比率                               </u>	予算案
I . 削別繰越金(於牙云質削交金)    I . 収入の部	5, 289	6, 719	6, 719	100%	8, 387
1. 会費	2, 177	2,600	250	1040%	1,050
(1) 団体	200	2, 600 600	100	600%	
(2)個人	1, 977	2,000	150	1333%	
収入合計	2, 177	2,600	250	1040%	1,050
Ⅱ. 支出の部	۷, ۱۱۱	2, 000	200	1040/0	1,000
1. 当年度の一般会計への繰入	747	932	697	134%	944
(1) 団体(当年度入金額の10%)	20	60	10	600%	0
(2) 個人(当年度入金額の10%)	199	200	15	1333%	105
(3) 前期繰越金の10%	528	672	672	100%	839
支出合計	747	932	697	134%	944
Ⅲ. 次期繰越金(終身会費前受金)	6, 719	8, 387	6, 272	134%	

(注) 平成28年度の寄附者:個人55名と2団体、総額327千円。

-							
7	平成28年度貸借対照表(平成29年3月末)(単位:千円)						
	一般	会計				終身会員会計	
資産の設	部	負債の部		資産の語		負債の部	
普通預金	2,825	普通会費前受金	0	普通預金	387	終身会費前受金	8, 387
未収入金	0	繰越金	2,825	定期預金	8,000		
合計	2, 825	合計	2, 825	合計	8, 387	合計	8, 387

平成 29 年 4 月 13 日

# 監査報告書

一橋植樹会会長 津田 正道 殿

私どもは、一橋植樹会の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの事業年度における理事の業務執行状況を監査するため、理事から業務の報告を聞くなど必要と認めた手続きを実施しました。

また、同事業年度の収支および財産の状況を検討するため、決算報告書、すなわち収支計算書および貸借対照表並びに関連書類について監査を行いました。

監査の結果、理事の業務の執行は適切であり、また、上記決算報告書は 収支の状況を正しく表示しております。

一橋植樹会

監事 小池 良 ⑩

監事 土方 周明 印

# 第2号議案

# 一橋植樹会役員(案)

# ☆・・・・平成29年度新任の役員

役職	氏 名	卒業年•学部	役職	氏 名	卒業年•学部
会長	津田 正道	(昭42商)	//	奥村 太久実	(昭61経)
顧問	福嶋 司	東京農工大·大学院名誉教授	//	田所 亮子	(昭63経)
//	田﨑 宣義	名誉教授(昭51博社)	//	田山 毅	(平6経)
//	関 統造	(昭41社)	//	望月 健一	(平8経)
副会長	徳永 興亜	(昭42商)	//	大坂 孝之	(平18社)☆
//	大池 明	(昭44商)	//	沼尻 晃輔	(平21社)☆
//	樋浦 憲次	(昭45経)			学関係)
//	筒井 泉雄	大学教育研究開発センター長	_	蓼沼 宏一	学長(昭57経)
	7	生関係)	//	辻 琢也	副学長
理事	石原 一子	(昭27学)	//	中野 聡	副学長(昭58法)☆
//	河野 正次	(昭31商)	//	米山 高生	商学研究科教授(昭57博経)
//	辻巻 孝	(昭34商)	//	林大樹	社会学研究科教授(昭59博社)
//	國持 重明	(昭35経)	//	来原 靖	大学事務局長
//	土田 将夫	(昭37商)	//	永木 康博	大学財務部長
//	籏野 友夫	(昭38経)	//	綱島 道征	大学施設課長☆
//	長谷川 輝夫	(昭39社)	//	大出 実樹雄	大学学生支援課長☆
//	八藤南洋	(昭40経)	//	山本哲也	大学総務課長
//	関戸 康男	(昭40社)	TID ==		主関係)
//	栗田 克彦	(昭41商)	理事	佐々木 龍也	
//	樋口 文夫	(昭41法)	//	加古息吹	(社4年)
//	佐藤 征夫	(昭42経)	//	瀬野 公也	(商4年)
//	西村 周一	(昭42経)	//	宮本 裕樹	(経4年)
"	高場 恭幸	(昭43経)	"	堂本 強介	(社4年)
"	五島 康晴	(昭44経)	"	下野 航太郎	(経4年)
"	保坂 証司	(昭44社)	"	岡田 航法	(社4年)
"	柳原和道	(昭44社)	"	加藤夏海	(経4年)
"	谷中健治	(昭45社)☆	"	山口 豪輝	(社4年)
"	川崎 勝晤	(昭46経)	"	石倉 愛美	(社4年)
"	金子彰	(昭46法)	"	加藤 瑞季	(商4年)
"	小槙達男	(昭46法)☆	"	石井 信明	(経3年)☆
"	岩城 悦子	(昭47商)	"	吉岡 菜穂	(商3年)☆ (は2年)→
"	若月 一郎	(昭47商)	"	今井 美希	(法3年)☆ ( <b>奈</b> 3年)→
"	林 利治 大川宏明	(昭47経)	"	金尻凉真	(商3年)☆
"	高橋 治夫	(昭47経)☆	// //	木之田 健 堀井 康太郎	(経3年)☆
		(昭48法)			(商3年)☆
"	高橋 忠明	(昭49商)	"	<u>宮崎 隆仁</u>   小堺 千種	(経3年)☆ (社2年)→
"	河村 進山口 久基	(昭49経)	"		(社3年)☆
"		(昭49法)	"	下田 康太	(商3年)☆ (***a年)→
"	秦哲也	(昭50社)	//	進谷 公達 小湖 自	(社3年)☆
"	飯塚義則	(昭50経)☆	監事	小池 良	(昭52商)
//	善宝 俊文	(昭53法)	// +7 並 / <del>^ *</del>	土方 周明	(昭52商)
		村田光二(前副学長)		が施設課長) (音4年)	加島輝夫(前学生支援課長)
, <sub>E</sub>	ケ	川村忠太郎(昭42法)	笠原俊宏		堀池尚希(平29経)
返	任役員	村本昌樹(平29経)	岡部光(平		中村朱里(平29法)
		長野太祐(平29社)	鈴木捺稀		籔本文美香(平29商)
		城和世人(平29社)	笹口健太	(平29社)	

# 第3号議案 平成29年度事業計画

# 基本方針

1. 昨年の総会で打ち出した「植樹」と「安全」の方針は 堅持しつつ、今年度は更に『緑地基本計画レビュー』の 第2次管理計画の着実な実施に向けて邁進します。

実施に当たって実務レベルでは、4月より年4回実施予定の大学施設課と植樹会のワーキング・チーム(WT、以下WTと表す)による検討会を通じ、相互に方針を確かめ合いながら、第2次管理計画のPDCAサイクルを進めます。

- 2. 財政基盤強化のために、引き続き個人会員増を図りつつ今年度も如水会支部を始めとして団体会員入会勧誘を 積極的に進めます。
- 3. アカマツの松枯れ対策については喫緊の課題として、 大学とも打ち合わせながら引き続き残り231本につき薬 剤樹幹注入に取り組みます。
- 4. 学生団体との共同作業を拡大し、学生参加を促進します。
- 5.30年先の植樹会運営の担い手として期待される平成 18年卒業の初代学生理事をヘッドにした元学生理事の OB・OG 会の組織化を目指します。

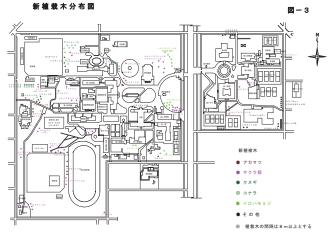
# 具体的活動計画

#### 1. ボランティア作業

『緑地基本計画レビュー』に基づく第2次管理計画の達成に向け、WTの中でその進め方に付いて検討を行い、出来ることから速やかに実施に移して行きたいと思います。

WTでは植樹会で出来る作業と施設課が業者に委託する作業の区分を明確にすることから始める必要があります。

予見される大きなポイントは第2次管理計画推進の上で必要となる多量の衰弱した高木(3年前の調査では約150本)の伐採です。大学の許可と必要費用の捻出が求められます。低木であれば植樹会の手で伐採可能ですが、成長しきった高木の伐採と処理は業者に委ねざるを得ません。こ



〈新植栽木分布図〉

れに付いて大学のご理解とご配慮をお願いして参ります。

(1) 定例の月例作業と交流会は例年通り13回を予定します。 その内、7月22日(土)、10月21日(土)の2回は、大学のご 協力を得て休日作業として実施する予定です。

草木の繁茂する夏季を中心に必要に応じて機動的に臨時 作業も行います。

(2) WT での検討を通じて、今年度の植樹を中心とした作業の計画を策定し実施して参ります。

昨年度に施設課が業者に伐採させたアカマツ等の跡地に 新たな補植を行う事、未だ元気なアカマツを生かす対策、 雑木林の維持、大学の購入済の苗木の活用等は植樹会の担 う役割と心得て進めます。



〈伐採されるアカマツ〉



〈アカマツを育苗地から掘起して移植〉

(3) 昨年度の課題として採り上げた "松枯れ蔓延の防止" はその経験から残りの231本への薬剤の樹幹注入に700万円前後の予算が必要と判断されます。

大学の苦しい台所事情は理解しますが、処置が遅れれば その間に松枯れが進行するのは過去の教訓から明らかです。 大学に英断を期待する一方植樹会としても昨年度同様最大 限の協力をする所存です。

- (4) 作業の安全を第一とし、機械・用具類の充実と保守点 検に留意しつつ作業効率の向上に努めます。
- (5) 作業の現場では低木の剪定作業にも前向きに取り組みたく剪定作業経験者の増員を図ると共に現存スタッフのスキル・アップに努めます。
- (6) 大学祭のみならず体育会部活施設や諸クラブ周辺の整備作業への支援を継続・拡大しながら学生の作業参加増に 努めて参ります。



〈7月ラグビー場整備作業後〉

## 2. 学生の主体的活動の推進

(1) 元学生理事の組織化実現に努めます。

在学中、学生理事として尽力してくれた若い世代の卒業生達には年2回の休日作業や大学祭の行事への参加を促し、現在の植樹会活動を推進する執行部及び学生理事との絆を確かなものにすることを狙いとし、その延長線上で彼等に「未来の植樹会幹事団」の中核を担って貰いたいとの願いがあります。

# (2) 学生の作業参加への働きかけの継続

学生の作業参加者は年々増え続けて居りキャンパスの環境維持・保全に欠かせぬ一大戦力に成長しました。引き続き、一橋祭運営委員会、KODAIRA祭実行委員会、クラブ等との連携を保ちながら更に実効を上げるべく努めます。

- (3) 大学祭には既に定着した「森のクラフト教室」を核として、引き続き植樹会として参加して参ります。
- (4) 「くにたちのお花畑」は園芸を愛好する学生にもボランティアとして参画してもらうことも視野に入れながら、 継続します。
- (5) 10年間続いて来た卒業記念植樹は昨年度途切れました

が、今年度再開の可否を検討します。

## 3. 組織強化活動

近年、決算監査の際には毎回、監事より年間500万円台の水準の支出を伴うボランティア活動を行う団体としては繰越金が200万円台にとどまって居り財政基盤が未だ脆弱とのご指摘を受け続けて来ました。支出には工夫しながら、一方で周年大会での新規入会勧誘活動を継続、収入増を図る努力を続けていますが、今年度も個人並びに団体会員の入会促進に注力すると共に広範囲に寄付を募ることも検討して参ります。

又、ボランティア作業の現場及び会の執行機関である幹事会に新しい血を絶えず導入できるよう休日作業等の機会を利用しながら不断の努力を続けて参ります。

#### 4. 広報活動

#### (1) 如水会々報・ホームページ

引き続き内容の充実、植樹会活動・キャンパスの状況を 生き生きとお伝えするべく努めます。特に、如水会々報内 の「植樹会通信」では如水会員に向かって情宣の媒体とし ての価値を一層高めるべく工夫を凝らして参ります。

## (2) その他の広報活動

学生向けの広報は引き続き学生班と連携し活動への参加 呼び掛けます。

#### 5. 寄附講義「緑の科学」の継続

過去5年間の経験の積み重ねにより講座内容は略完成に 近づいたと判断しています。4学期制へ移行する初年度の 今年は講義時間が90分から105分にと15分間延びる要素を 有効活用し、フィールドワークの内容を高めるべく努めま す。



〈キャンパス・ツアー〉

# 6. キャンパス外活動

6月上旬に恒例の箱根坐忘山荘の庭園の手入れを行う予 定です。

# 平成29年度一橋植樹会幹事会組織(案)

- 1. 企画・統括班 正) 大池理事(副会長・経理担当)
  - ◎企画・総務グループ
    - 正) 高橋理事(総務担当)

担当:事業計画立案、予算・決算、幹事会、総会、大学・如水会折衝窓 口、休日作業の企画

# ◎組織・統括グループ

正)秦理事(周年大会担当・緑の科学バックアップ)、飯塚理事候補(会員・ 会費管理担当)

担当:組織強化、卒業生・教職員・団体・特別会員(除学生)会員の増 強、会費の管理、会員名簿の作成と改訂、寄付講義(緑の科学) のバック・アップ。

2. 学生班 正) 河村理事

長谷川理事、保坂理事

担当:学生会員の勧誘、作業参加促進、交流会活性化、一橋祭・KODAIRA 祭への参加、学生会員の名簿管理、学生植樹会の支援。

3. 広報班 正) 樋浦理事(副会長・緑の科学・植樹会通信担当)

高場理事、谷中理事候補(HP 担当)

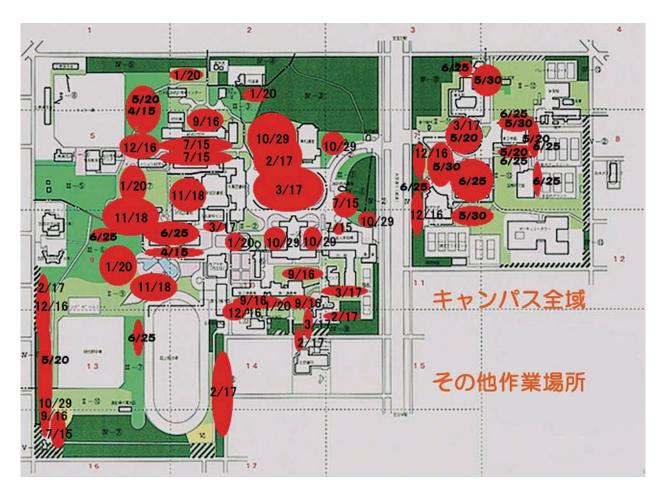
担当: HP の更新および案内、如水会会報への投稿、小冊子・チラシの作製、学生会による学内誌との連携、寄附講義(緑の科学)。

4. 作業班 正) 徳永理事(副会長)

樋口理事、五島理事、柳原理事、小槙理事候補、大川理事候補、山口理 事、善宝理事、飯塚理事候補(兼務)、

担当:定例作業の企画、案内と実施、用具備品の購入・管理、安全対策、 交流会の準備と実行、植樹計画の立案、保険(傷害、自賠責)に 関する事項。

5. 会長特命案件(無任所) 西村理事、 林理事(休会中)



【平成28年度キャンパス全域活動エリアマップ】

平成29年度休日作業日程:7月22日(土)、10月21日(土)

その他の月は原則として第3金曜日に開催ですが、 大学のスケジュールとの兼合いで変更となる場合があります。

詳細は、植樹会の HP「一橋植樹会」で検索してお確かめください。 皆様の参加をお待ちしています。

